

第21回運転免許制度に関する懇談会議事要旨

1 日時

平成23年1月21日（金） 午後3時から午後5時までの間

2 場所

警察庁18階第10会議室

3 議事要旨

(1) 資料説明（警察庁）

- ・ 更新時講習で使用される教材の現状について説明。
- ・ 教材の在り方の見直し案について説明。

(2) 討議

教材の内容、構成について

- ・ 優良運転者講習で運転適性自己診断用紙を配らないこととすると、優良運転者のうちペーパードライバーである方にも、配らないことになる。そのような方については、いざ運転を始める前に、自らの運転適性を確認した方がよいことを考慮すると、優良運転者講習においても、希望する方には配布するなどしてもよいのではないかと。
- ・ 運転適性自己診断用紙を教本の中に取り込み、一体にすることで、紛失の防止を図ることができるのではないかと。
- ・ 運転適性自己診断は更新時には全員実施した方がよいのではないかと。
- ・ 教材に運転者のヒヤリ・ハット体験等の記録をする欄を設けるのであれば、講習受講後1年、2年、3年と、年ごとに分けて記入できるようにして、年ごとに自分の運転状況を比較できるようにすると効果があるのではないかと。
- ・ 例えば、こういう運転をすれば車が長持ちするというように、ユーザーの観点からエコドライブについての記述をすることで、読者に興味を持たせることができるのではないかと。その結果、エコドライブが普及すれば、安全運転にもつながる。
- ・ 現在配布されている教材にも、アイドリングストップについての記述はあるが、どのような方法や場面でアイドリングストップをするのかなど、読者が知りたいことやためになることを、より具体的に書くべきではないかと。また、アイドリングストップについて知りたいと思ったときに、教材のどの部分にそのことが記載されているのか、探すための工夫が必要ではないかと。
- ・ 教材に電気自動車やハイブリッド自動車といった新しい自動車の特質や留意事項等を書くべきではないかと。

- ・ 最近、携帯電話（スマートフォン）を通常のカーナビと同じように使えるようになってきたが、そういった技術革新についても教材に記載をするべきではないか。

インターネット利用について

- ・ インターネットを利用することで、アクセス数が分かるため、多くの方が何に興味を持っているかが明白になる。今後は、そういった反応を観察してコンテンツの充実を図っていくべきではないか。
- ・ 運転適性自己診断用紙を電子データにしたり、インターネット上での自己診断ができるようにしたりすれば、より多くの方に活用されるのではないか。
- ・ 各県の免許関係のウェブサイトは大変充実しているので、これらのページにリンクを張れば、便利なものとなり、より多くの方に見てもらえるのではないか。
- ・ インターネットを使えない方等に対して、必要な情報をどのように提供していくかについて検討するべきである。

その他

- ・ コスト削減という仕分けの命題があるので難しいかもしれないが、交通安全の観点から、教材のページ数を増やすなどより充実させるという視点も重要ではないか。
- ・ 講習手数料は、人件費と教材費を合わせたものであるが、人件費の方が大部分を占めていることを考えると、教材費を安くしても、一般の方から見たらほとんど下がったように見えないのではないか。